

白山を登山して

2017 年 7 月 21～22 日

我部山民樹

白山は石川県と岐阜県にまたがる標高 2702m の日本百名山の一つである。富士山（浅間神社）、立山（連峰、雄山神社）と並び 3 名山と呼ばれるように霊峰として多くに知られている。越前の僧‘泰澄’が開山して今年は 1300 年であり、これを祝う‘白山まつり’が開催されているのを知り、他の予定を変更して、登山ツアーに参加することにした。



最高峰の御前ヶ峰と火口湖

白山市内に‘しらやまひめ（白山比メ、メは口へんに羊）神社’が有る。北陸鎮護の大社である。標高 2350m の白山室堂には‘白山奥宮’が有る。1300 年祭を記念して建立し直したそうだ。神主が常駐する総檜作りの立派な社である。最高峰（2702m）の御前ヶ峰（ごぜんがみね）にも奥宮の社が有る。

7:10 に羽田に集合する。毎日新聞旅行社の添乗員は上州武尊山ツアーで一緒だった女性の U さんである。ツアー参加者は男性 6 名、女性 17 名で私の参加したツアーでは最大である。男女比はいつもとほぼ同じである。平均年齢は 65～70 歳か？

羽田発 7:55 分発の JAL で小松空港に向かう。小松空港より、登山口の別当出合にチャーターバスにて向かう。空港ではクラブツーリズムの（同じ白山登山用）の大型バス 2 台が待機していた。1 台は女性専用のツアーだ。白山はもともと人気の山だが、今年は 1300 年祭なので例年より登山者が多いのかも知れない。

途中でガイド 2 名が乗り込む。参加者が 20 名位を超えるとガイドが 2 名になるらしい。

後で判るが二人とも百名山を踏破していて、白山専門のガイドだ。登山者が多いから白山専門が成り立つのだろう。添乗員から、両ガイド共がテレビの登山番組に出たことが有ると聞いたので、夕食前、ビールを楽しんでいる時に聞

いてみた。(決して自分からは喋らないので。)

男性ガイドは三谷さんという。‘NHK の百名山番組の白山編のガイドを務めた。好天候を待たないといけないし、リハーサルで事前の登山もするし、結局、収録は 8 日間を要した。’と。もう一人は女性のガイドの宮下さんだ。‘民放の登山番組のガイドをしたことが有る。殿下の番組’と言ったので、それは見た記憶が有る。確か、殿下(小野寺昭)の白山の登山番組であり、殿下が‘自分は雨男で、2 回に 1 回は雨が降る。今日も心配だ。’と言っていたのが記憶に残っている。それに‘ガイドは白山に住んでいて、蒔絵の細工物を製作して、山荘等

で販売している。’というシーンも思い出した。また‘前日は雨だったが、今日は晴れ上がっていて幸運だ。’と殿下が言っていたシーンの記憶がよみがえる。百名山の登山番組は全て DVD に落としているので、帰ってから、見直してみると両ガイドに伝える。

バスの中で三谷ガイドに白山について説明を受ける。

- ・国立公園は全国で 34 指定されている。白山はその一つだ。

他の国立公園の説明を受けたが覚えていない。

- ・白山の西には標高 2000m 以上の山が無い。白山は高山植物の西限である。(四国の石鎚山が標高 1983m で西日本の最高峰) 東日本と西日本の高山植物が集まっている。

- ・ハクサンの名がつく高山植物は 18 種類ある。ハクサンイチゲやハクサンチドリ等である。高山植物の名前が江戸時代に統一されたが、この山でつけた名前が多く使われている。30 種類有る。ハクサン以外では、例えばゴゼンタチバナである。ゴゼンは頂上の御前ヶ峰から取った名前。

白山由来の名前が一番多いが、次は立山由来である。タテヤマリンドウ、タテヤマキンバイ等である。霊峰であり、昔から登山者が多かったので、統一時にハクサンの名前が優先されたと思われる。

バス移動の途中、河原に見える大石が‘百万貫岩’で県指定の天然記念物だ。実際は数百万貫あると。



別当出合に到着後 10:25 に出発。甚之助小屋、黒ボコ岩を經由して 16 時過ぎに室堂の白山雷鳥荘に到着する。天候も晴れていて、景色や高山植物を堪能する。高山植物については後で纏める。三谷ガイドに雷鳥荘の名前の由来を尋ねる。‘昔は雷鳥が多かったが、今はいなくなった。2015 年に友人のガイドが 70 年振りに雷鳥を見つけたと連絡してきたことが有る。その後は確認されていない。’と。雷鳥と言えば笠ヶ岳（岐阜）と宮之浦（屋久島）でしか見ていない。生息していても、外敵を用心して、小雨が降るような曇り（敵に見えにくい）の時しか現れないそうだ。どちらの山も終日雨だったと記憶がよみがえる。



食事は 17:40 開始だ。風呂が無いので、アルコールテッシュで全身を拭く。有難いことに生ビールがある。一杯 800 円だ。ガイドや他の登山者とビールを楽しむ。2 杯飲む。ここでガイドから登山番組収録の話を仕入れたのだ。翌朝は 3:30 に出発し、頂上でご来光を仰ぐことになっているので、早めに 20 時頃に就寝する。

7 月 22 日

2:30 に起床。外を見ると霧に覆われている。落胆する。
3:30 に出発。先ほどの霧は消えていて、星が輝いている。これだにご来光が期待できると喜ぶ。山の天候はいつもこのように急変する。途中で‘青の石’の説明を受ける。これから上が天上界だそうだ。天気予報は晴れに変わっていたが、徐々に雲に覆われてくる。
4:20 過ぎに頂上に到着。4:50 頃にご来光の予定。途中で我々を追い越した神主が、白山にまつわる話や遠方の峰々の説明をする。この話を聞きながら、ご来光を待つ。徐々に雲が増え、残念だが、ご来光は拝めない。が、全員で万歳三唱をする。登頂の証拠写真を撮影して、御池巡りをする。



ここらは 30 万年ほど前まで琵琶湖の 10 倍ほどの湖だったそうだ。火山活動が激しくなり、山となった。30 ほどの火口湖が残っている。その最大のものが翠ヶ池（みどりがいけ）である。美しいミドリ色の湖面のはずが霧に湖面が覆われていて、残念ながら見られなかった。しかし、多くの高山植物を鑑賞できた。

今回で、日本百名山を 49 座登頂したことになる。66 歳以降で 47 座である。学生時代に八ヶ岳の間ノ岳と北岳を登頂したので。66 歳の時に立てた目標、百名山を 30 座以上、出来れば 50 座以上登頂の目標が年内に達成できる。66 歳で退職した時に富士山を登ってみたいとの思いで登山を思い立った。それに宮之浦岳、利尻岳、奥穂高岳、槍ヶ岳、剣岳だけは登りたいと思っていた。このうち、利尻岳以外は登頂できた。利尻岳は高山植物の花盛りの時期の 7 月に登りたい。来年の予定だ。後は登りたくなかった山だけをぼちぼち登るか？取りあえず、8 月は出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）と鳥海山に登る予定だ。出羽三山奥参りという風習が有る。西の伊勢参り、東の奥参りである。市原も盛んで、市内いたるところに出羽三山神社の石碑が立っている。男子が 15 歳になると奥参りをする風習が有るそうだ。最近の事情は知らないが、市内のあちらこちらに、三山神社詣での記念碑が見受けられる。

7:00 頃に山荘に帰着する。食事後 8:00 に下山開始である。

食事後、少し時間があるので奥宮に行く。昨日、御朱印は頂いていたが、ここ室堂の奥宮と山頂の奥宮の関係を聞きに行く。受付にいた巫女風の女性が説明できなくて困って、他の人に聞きに行く。帰ってきたが要領を得ない。皆バイトで知らないのだろう。仕方がない。



白山奥宮



宮下ガイドと U 添乗員

少しずつ、雲が少なくなり、周辺の眺望が効くようになった。
下山開始後、登りの客が増えて来る。狭い道を譲りあいながら、時間をかけて下山する。今日から夏休みが始まったし、週末なので、高校生のグループや小・中学生連れの登山者も多い。しかもこの時期は高山植物が花盛りだ。

今朝、雷鳥荘の今日の宿泊客は 400 人ほどと聞いた。昨日は 200 名程度だったので混雑しなかったが。

昨日見たものを含めて、名前の分かる高山植物を列記する。帰ってから、図鑑で確認したものもある。高山植物の名前はその地方の農民がつけたと聞いたことが有る。カタカナ表記で有り、漢字を当てはめられないものもあるので、覚えにくい。もともと漢字だった名前もカタカナで表記している。しかも耳が遠くなりつつあるので、ガイドや高山植物博士？（妙に詳しい女性客が一人や二人が参加している）の折角の説明を聞き間違えることが有る。



ハクサンイチゲ



ハクサンチドリ



ハクサンフウロ

ハクサンチドリ、ハクサンボウフウ、ハクサンコザクラ、ハクサンシャクナゲ、ハクサンイチゲ、ハクサンシャクナゲ、ニッコウキスゲ、クロユリ、シロハナヘビイチゴ、クモキリソウ、ウバユリ、ヒトリシズカ、カラマツソウ、イワカガミ、イワキキョウ、イワイチョウ、イワウメ、イワヒゲ、オヤマリンドウ、ミヤマキキョウ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンポウゲ、ショウジョウツゲ、アオノツガサクラ、ヤナギラン、ツガサクラ、コケモモ、チングルマ、キバメノコマノツメ、コタカラソウ、ヨツバシオガマ、コバイケイソウ、センシュガンピ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマド、ヤマハハコ、ホタルブクロ、カワラナデシコ、サンカヨウ、キヌガサソウ、クルマユリとざっと 40 種類である。ウバユリ、センジュカンピは始めてである。クロユリをじっくり見たのも初めてののような気がする。このほか説明を聞きとれなかったもの、名前を聞いても覚えきれないので、質問するのをためらわれた植物も有る。まさに高山植物の宝庫だ。白山専用のガイドなので、よく知っている。山岳ガイドだけで無く、ネイチャーガイドも目指していると。チングルマの花の寿命は 1 週間程度で有り、ニッコウキスゲはせいぜい 1 日半らしい。なかなか花が咲くタイミングに登山時期を合わせられないのだ。

下山後 15 時頃に白峰温泉総湯に立ち寄る。それほど広くない温泉だ。毎度のことだが、下山後の身体を休めるには温泉が何よりだ。しかし、ここにはビールも無いし、食事処も無い。向かいの食事処で、昼食を各自取るように添乗員から説明を受けたので、そこに入る。驚いたことに、席数が少ない。とても 23 名は入れないし、他の客も入っているので、ほんの数席しか空いていない。周辺を探したが、2 件の食事処は閉まっていた。コンビニは無い。やっと酒屋を探して、ビールとつまみを手に入れ、バスの中で楽しむ。食事は空港ですることにした。登山ツアーではたまに有ることだ。

北陸鎮護の大社' しらやまひめ神社' に立ち寄る。御朱印をいただいてから、お休み処で休憩する。



しらやまひめ神社

帰りの飛行機は 19:45 発の最終便である。時間が余る。何かのトラブルを考慮して時間の余裕を取っているのだ。どうやって時間を費やすか？毎度のことながら。

空港のレストランで、横浜の金沢文庫からの客、千葉の佐原からの客と 3 人でビールと会話と楽しむ。やはり、時間を費やすのは飲むだけか？飲めない人は大変だろうと余計な心配をする。ここで、横浜の某氏から‘他のツアーもあるのに、何故 2 名の有名なガイドが本ツアーに来てくれた’のかを誰かに聞いたら、クラブツーリズムのツアーで、登山口を 14 時に出発して、雷鳥荘に 21 時に着いたことが有った。これでは翌日の早朝の準備ができない。(我々は 11 時頃出発で 16 時頃到着) 出発時刻も遅いが、歩行時間がかかりすぎている。それ以来、山荘がクラツアの宿泊を断るので、両ガイドも本(毎日新聞旅行社)ツアーを優先している。クラツアは麓？の他の山荘に宿泊し、2 泊 3 日(一日余計)の登山ツアーをしているらしいと聞いた。‘と。

横浜からの某氏は某登山ツアーで同行者の転落死亡事故に遭遇して、警察の事情聴取を受け、帰りが遅れて大変だったそう。

幸いなことに自分が怪我をしたことが無いし、他の人が手を少し捻った程度の事故にしか遭遇してない。

今後も安全には注意していきたい。

(2018 年 12 月に画像を追加)

以上